

## 平成26年度愛媛大学大学院入学式 式辞

本日ここに平成26年度入学式を挙げるにあたり、愛媛大学を代表して皆さんの大学院への入学を、心から歓迎いたします。

この大学院入学式のために、ご臨席を賜りましたご来賓、ご家族をはじめ、関係の皆様に、深く感謝申し上げます。

今年度、愛媛大学大学院に入学された方々は、大学院博士課程では、医学系研究科博士課程と理工学研究科博士後期課程に42名、大学院修士課程では、法文学研究科、教育学研究科、医学系研究科、理工学研究科博士前期課程及び農学研究科に392名の皆さんであります。この他に、愛媛大学には、香川大学、高知大学と共に構成する博士課程の連合農学研究科がありますが、来る4月14日に入学式を行い、17名を迎えることになっています。

皆さんの中には33名の社会人学生、14名の海外からの留学生が含まれています。これらの方々は学業以外の面においても多くのご苦労があることと思います。困難をいとわず学問に挑む皆さんの高い志をたたえるとともに、試練を乗り越えて、所期の目的・目標を達成されることを願っています。

社会は今、新しい知の創造や新しい技術の開発のために、若い知識人や研究者、高度の専門職業人が数多く輩出されることを期待しています。愛媛大学大学院に入学された皆さんがこの社会的使命を自覚し、広い視野と高い志をもって学修と研究に励み、優れた専門職業人あるいは研究者として成長されるよう祈念いたします。

さて、国立大学が平成16年に国立大学法人に移行してからちょうど10年が経過しました。法人化によって、管理運営が個々の大学の裁量にゆだねられる部分が多くなり、従来にくらべて格段に自律性が増すことになりました。愛媛大学は、この利点を最大限に生かして、教育、研究、地域連携、国際連携においてさまざまな改革を推進してきました。その目標は、「学生中心の大学」、「地域にあって輝く大学」、「地域から世界に発信する大学」をつくることです。

大学院教育に関しても法人化後、大きな変化がありました。従来、修士課程でも博士課程でも、指導教員の下で特定のテーマで調査・研究することが活動の中心でした。学生の多くは、自分の研究テーマに直接関係する知識や技術に熟知していても、それを少し外れた分野に関しては知識が乏しい、あるいは関心が薄いとといった偏った傾向が見られました。そのため、自分の研究が学術的にどのように位置づけられるのか、どのような社会的な意義をもつのかうまく説明できない視野が狭い学生を多く生み出していたと思います。

法人化後、その反省に立って、大学院のカリキュラムを大幅に改善しました。

どの研究科においても、学位論文作成のための研究活動（リサーチワーク）と並行して、広い分野の基礎的な知識や技術を修得するためのコースワークが導入されるようになりました。広い知識基盤のもとに、専門領域の最先端の諸課題を理解し、その学術的な位置づけや動向を把握した上で、リサーチワークを遂行する。このようなリサーチワークとコースワークを並行して進めるスタイルは、将来皆さんがどのような道に進むにせよ、自分の仕事を発展させる上で大いに役立つものだと思います。

愛媛大学ではまた教育改革の一環として、学生に在学期間を通じてどのような能力を身につけて欲しいかを示した「愛大学生コンピテンシー」を一昨年7月に決めました。この「愛大学生コンピテンシー」は主に学士課程の学生を念頭に置いています。大学院生にも適用できるものです。「愛大学生コンピテンシー」は「5つの能力」と「12の具体的な力」から構成されています。そこで強調されているのは、「組織や社会の一員として生きていく能力」の育成、すなわち社会的能力の育成です。大学院に入学される皆さんはそのような能力をすでに身につけていると思いますが、その能力をさらに高めるよう心掛けてもらいたいと思います。

社会的能力にはコミュニケーション力や協調性やリーダーシップだけでなく、相手の立場になって物事を考える能力、集団の中で自分がどのような役割を果たすべきか理解する能力など社会生活を営むのに欠かせないさまざまな能力が含まれます。このような能力は、社会に出たときに必要なだけでなく、自分の研究レベルを高めるためにも必要です。皆さんはすでに何度も経験していると思いますが、自分で理解しているつもりでも、人と議論を交わしたり発表したりした時に実はあやふやな理解しかしていなかったことに気付くことがあります。自分の理解を深めたり、新しい発想を得たりするためには、人との意見交換や徹底した議論が不可欠です。すなわち、知を創造するためには、質問したり、議論したり、教えたりする仲間の存在が不可欠です。この意味において、研究は個人的な営みであると同時に、すぐれて共同的な作業でもあります。皆さんはそのような機会をなるべく多くもつために、研究室やゼミでの発表や討論だけでなく、学内外での交流、国内外での学会発表などに積極的に取り組んでいただきたいと思います。

また愛媛大学は、教育改革だけでなく、研究に関する改革も組織的に進めてきました。愛媛大学憲章では、「先見性や独創性のある研究グループを組織的に支援し、世界レベルの研究拠点形成を目指す」ことを謳っていますが、皆さんもご存知だと思いますが、これまでに設置した先端研究センターは国内有数の研究拠点になっています。

例えば、本学で最初に設置された沿岸環境科学研究センターでは、化学物質に

よる地球規模の環境汚染や生態系汚染の実態解明に著しい成果を挙げ、21世紀COEやグローバルCOEに採択されています。同じくグローバルCOEに採択された地球深部ダイナミクス研究センターでは、高温高圧実験による地球内部物質の探査および数値計算による地球深部の構造と物性の探査によって世界トップレベルの成果を挙げ、昨年4月に文部科学大臣から共同利用・共同研究拠点に認定されました。また、昨年4月に無細胞生命科学工学研究センターとプロテオ医学研究センターが統合してできたプロテオサイエンスセンターでは、独創的な無細胞タンパク質合成技術を基盤として生命科学の基礎研究から医学の臨床応用までの幅広い分野を一体的に研究する仕組みを整えており、マラリア・ワクチンの開発などで先進的な成果を挙げつつあります。

本学にはその他にも特長のある先端研究センターがあります。宇宙進化研究センターは、ブラックホールの形成と進化など宇宙の進化に関する研究に取り組んでいます。また、東アジア古代鉄文化研究センターは中国、ロシアなど東アジアにおける鉄文化の変遷を研究しています。

本学にはそれだけでなく、地域に密着した研究センターもいくつかあります。南予水産研究センター、地域創成研究センター、防災情報研究センター、植物工場研究センター、そしてこの4月に発足したばかりの紙産業イノベーションセンターがその代表的なものです。愛媛大学憲章において、「地域の諸問題の解決に向けて人々とともに考え、行動し、地域社会の自立的発展に貢献する」と宣言していますが、これらのセンターは研究活動・地域連携活動を通じてこの理念の実現に努めています。

私がいま述べた研究センターの教員のほかにも、愛媛大学にはさまざまな分野ですぐれた成果を挙げている教員がたくさんおられます。皆さんが大学院修士課程あるいは博士課程において研究活動を始めるときに当たって、皆さんの先達であるこれらの教員からぜひ研究者としての姿勢を学んで下さい。

今回、愛媛大学大学院に入学された皆さんが、充実した大学院生活を送られ、将来、日本の未来、そして世界の未来を切り拓く有為の人材として、力強く社会に羽ばたかれることを祈念し、式辞といたします。

平成26年4月7日

愛媛大学長 柳澤 康信